

報告書

【目的】

高校教育の現場で自ら課題を発見し能動的に探究し表現する「主体的に学ぶ」能力をいかに育成するかについての関心が高まっており、大学で学びたいという高校教員からの声が増えてきたため、当学で高校教員向けにセミナー入門編を企画した。

【日時】2016年8月8日（月）10時～17時、9日（火）9時～12時

【会場】大阪大学豊中キャンパス 言語文化研究科 A棟 2F 大会議室 他

【対象】高校で探究学習を指導している、あるいは指導予定の教員

【セミナー講師】

佐藤 浩章（大阪大学 全学教育推進機構 准教授、教育学習支援センター副センター長）
進藤 修一（大阪大学言語文化研究科教授、教育担当理事補佐）
大前 吉史（兵庫県立兵庫高等学校 主幹教諭）

【ゲストスピーカー（昨年度受講生）】

長谷川 卓也（京都橘高校 教諭）
笠原 正大（暁星国際学園 ヨハネ研究の森コース 教諭）
井上 志音（灘中学校・高等学校 教諭）

【参加人数】受講生 42名、ゲストスピーカー3名、講師3名、阪大教員（見学）3名 計 51名

【プログラム内容】

8月8日（月）

9:30 ~10:00	受付	
10:00 ~10:15	オープニングセッション	進藤 修一
10:15 ~11:00	探究学習入門	佐藤 浩章
11:00 ~12:00	アイスブレイクセッション	佐藤 浩章
12:00 ~13:00	ランチョンセミナー	講師・出席者全員
13:00 ~14:00	探究学習の授業デザイン	佐藤 浩章
14:00 ~15:00	授業デザイン・グループワーク (1)	
15:00 ~15:30	探究学習の評価	佐藤 浩章
15:30 ~17:00	授業デザイン・グループワーク (2)	
17:30 ~19:00	情報交換会	

8月9日（火）

9:00~10:00 ポスター発表と相互フィードバック
10:00~11:00 探究学習の実践

① 探究学習の実践Q & A	大前 吉史
② 高校教員による探求学習の実践例	昨年度の受講生
11:00~11:45 リフレクション	佐藤 浩章
11:45~12:00 クロージングセッション・修了証授与式	進藤 修一

【報告】

前年度に引き続き、2年目の入門編セミナーの開催であった。

応募の動機としては、

- ・昨年受講を希望しながら日程の都合で参加できなかったのが今年、申し込んだ。
- ・去年の受講生から「ためになった」という噂を聞いたので。
- ・「高校で取り入れたいので学んでほしい」と上長から勧められた。

などの声が聞かれたが、高校教員間での情報の広がりも手伝って、本年度は教育委員会の手を借りずに個人応募だけでほぼ定員に達することができた。

高校の授業実態をふまえた探究学習の導入方法、授業の進め方から評価までの一連の流れを紹介し、またこの学習を教員が実体験するグループワークを実施した。また、2日目には去年の受講生がゲストスピーカーとなり、事前に寄せられた受講生からの疑問に答える形で各高校現場での具体的な取り組みの紹介を行い、修了証を授与して終了した。

ランチセミナーや情報交換会など参加者同士の交流を促す時間も設定し、昨年度のプログラムを改訂した形で提供できたので、おおむね好評であったように思われる。

【参加者の声—アンケート結果より（抜粋）—】

- ・より論理的に具体的に探求学習について学ぶことができたこと。特に問い、目標の立て方がより具体的であったこと。
- ・ルーブリックを実際に作る作業を体験できたこと。
- ・自分もポスターを作成することによって、（生徒の）難しさやつまづきがどこに生じるかなどがよく分かった。
- ・探究学習を行う生徒たちがいかに大変かということを実感できた。
- ・他校の先生方と苦労を共有し、探究の探求を先進的に進めておられる方々からとても刺激を受けました。
- ・総合学習の取り組みなどは、教員間の共通理解がいちばん難しいと感じるが、こういう場に参加すると、前向きに感じられるのでよかった。
- ・多くの意識の高い先生方と出会うことができた。
- ・現場よりの実践を踏まえたマインドみたいなものを伝えていただけておもしろかったです。
- ・様々な知識、ノウハウが学べただけでなく、やはり志の部分（目標、動機）の強さが大事であることを痛感しました。
- ・教員の思考の枠組みを変える必要があることに気付きました。
- ・探究活動の問い・評価・歴史的背景など、とても納得できました。うちの高校の全教員に聞いてもらいたいです。

以上

